

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：けんせい保育園	種別：小規模認可保育所B型	
代表者氏名：鎌田憲征	定員（利用人数）：19名	
所在地：神奈川県相模原市中央区相模原2-10-14-1F		
TEL：042-707-7379	ホームページ：http://kenseiprime.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年11月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社健成プライム		
職員数	常勤職員：6名	非常勤職員：11名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：13名	調理員：2名
	子育て支援員：2	
施設・設備 の概要	（居室数）	
	（設備等）	
	0歳児保育室1室	事務室
	1歳児保育室1室	調理室
	2歳児保育室1室	

③理念・基本方針

<p><法人理念>輝く日本の未来を創造する力になろう</p> <p><施設理念>心と体の健やかな成長を目指し、優しさと笑顔があふれる園を創造すること</p> <p><基本方針></p> <ul style="list-style-type: none"> ●安定した生活習慣が一人一人の発達に応じて確立される事 ●愛情豊かな関わりの中で信頼が築かれ快適な生活が送られる事 ●様々な活動や遊びによって好奇心と自立心が育まれる事 <p><保育目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ●明るく素直で元気な子 ●自ら考え行動できる子 ●心優しく愛し愛される子
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p><けんせい保育園の特徴的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ●定員19名の小規模保育園ですが、最大28名まで受け入れることができるゆったりとした広さを有し、家庭的な雰囲気の中で、子どもたちは基本的な生活習慣を学んでいます。各クラスにフリーの保育士を配置する等、保育従事者のゆとりある配置数で手厚い保育を提供しています。大家族的な異年齢の集団生活を通して、豊かな人間関係を経験し、社会性を身に付けています。
--

●食育に注力しており、味覚を育むために2週間ごとの反復式献立を採用しています。米は秋田県から産地直送し、醤油は香川県から、味噌は長野県から等、天然醸造にこだわり、安心・安全な食材と本物の味覚を提供しています。

●毎月、外部講師による「英語遊び」を実施し、様々な表現活動を体験しています。散歩コースは20カ所程度あり、「楽しい目的を持った散歩」コースに子どもは小旅行のようなワクワク感を体験しています。また、保護者に対して園での子どもの様子がわかるよう、「ブログを媒体にした実践記録の見える化」に取り組んでいます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年06月24日（契約日） ～ 2021年11月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2013年度）

⑥総評

【けんせい保育園の概要】

●けんせい保育園（以下、本園という）は、株式会社健成プライム（以下、法人という）が運営しています。本園は、平成25年11月に認可外で開園し、法改正による小規模保育を行う保育園として、平成27年4月1日に認可されました。けんせい保育園の「けんせい」は、健成（健全育成）の意味を持ち、保育理念に「心と体の健やかな成長を目指し、優しさと笑顔があふれる園を創造すること」と掲げ、全ての家庭に笑顔を与え、子どもたちの心と体の健やかな成長を助け、その社会的役割を果たすことで、「地域に貢献する」ことを目指しています。

●本園はJR横浜線「相模原駅」から徒歩4分と駅から至近であり、飲食店等のある繁華街から外れた駅前の中心地にあり、保護者にも利便性の良い場所に位置しています。本園のある相模原市は公園も多く、自然豊かな環境に恵まれ、四季折々に散歩コースとして様々な散策ができます。本園のフロアは、定員19名の小規模保育園ですが、最大28名まで受け入れることができる保育有効面積を有し、家庭的なゆったりとした雰囲気の中で、温かく見守られながら子ども一人ひとりがのびのびと育てられています。

◇特に評価の高い点

1. 【保育従事者の充実した配置と小規模の良さを生かした保育】

●小規模の良さを生かし、一人ひとりに寄り添い、それぞれの子どものに合った保育を実践しています。0歳児は5名定員で、活動が保証され、温かく見守られながら安心できる環境の中で、遊び・食事・休憩を通じて集団生活を過ごしています。1歳児、2歳児は定員7名であり、個の活動から集団活動へ移行する中で、子ども自身が意欲的に様々な活動に取り組めるよう援助し、なるべく手を出さずに自発性を促し、健やかな心と体の育ちを支援しています。基本的な生活習慣の自立や言葉の理解等も学びます。各クラスにフリー保育士を配置し、保育従事者の配置数を多くして一人ひとりに時間をかけて関わり、協力体制を整え、手厚い保育が行われています。

2. 【食育への取り組み】

●食べることは生命の基本であり、子どもの健やかな心と体を育む、元気の源と考え、食への取り組みに力を入れています。園では、天然醸造の食材を産地直送で仕入

れ、「和食系家庭料理」を中心に、自園調理による給食・おやつを提供をしています。年齢別の食育指導計画を作成し、発達に合わせた調理方法に配慮し、子どもたちが自ら意欲を持って食事できるよう配慮しています。例えば、粥の硬さをその場で調整したり、小食の子どもには別皿を用意する等、成長に合わせた食事を提供しています。誕生日には手作りケーキで祝い、季節のレクリエーションでは食と楽しさがつながる楽しいイベントを行っています。検食では、検食簿を記録するだけでなく、検食サンプルを2週間分保存する等、食品衛生管理にも十分取り組んでいます。

3. 【保護者への様々な情報提供による支援】

●新型コロナウイルス禍により、保護者が園内で子どもの様子を見る機会が少なくなったことを考慮し、園では保護者への情報提供を積極的に取り組んでいます。子どもを中心に保護者と職員が同じ喜びを分かち合えるよう、ホームページでは「ブログを媒体にした実践記録の見える化」に取り組み、園での子どもの様子が分かるよう、写真や記事を掲載して発信しています。また、動画で紹介する「おうちえん」アプリでは、園での様々な活動、様子を見ることができ、保護者に好評を得ています。献立配信動画では、給食の内容とレシピを紹介し、家庭での食育につなげ、子どもとの会話が弾むよう配慮する等、様々に工夫しながら家庭に詳しく伝えています。

◇改善を求められる点

1. 【地域との交流と子育て支援への取り組み】

●子どもと地域の人々が交流を図ることは大切なプロセスと考えています。子どもが地域活動に参加するよう心がけていますが、新型コロナウイルス禍で機会が減っている状況です。以前は地域の高齢者サロン「きらくクラブ」（小山地域包括支援センター）と定期的に交流を図り、毎日の散歩時には地域の方と挨拶を交わし、また、活用できる地域の情報を収集し、「子育て支援掲示板」を玄関前に設置することで地域の方々との交流を図っていました。さらに、職員が出張して「小山公民館」での手遊びや、保育園の専門的な知識・技術の情報を地域に提供する機会を設けていました。今後、子どもの個別の状況に配慮しつつ、地域との交流機会を定期的に設ける等の取り組みと、地域の福祉向上のため、仕事と子育ての両立を行う家庭に対して、継続的な支援活動に取り組んでいただくことを期待します。

2. 【職員のさらなる専門性向上への取り組み】

●福祉人材に特に重要とされるホスピタリティの精神を人材育成の根本に掲げ、人材育成に取り組んでいます。必要な保育士・調理師等の人材体制については基本的な考え方で運用し、職員配置を十分に整え、働きやすい環境を構築することで職員の定着率も高くなっています。年1回、自己評価シートによる評価を実施し、互いの学び合いや意識の向上につなげ、自己評価に基づいて保育の改善や、専門性の向上に取り組み、スキルアップの意識の向上に取り組んでいます。また、新入職者には「お仕事のマナーBOOK」を配付し、職場での人間関係や保護者との関係がスムーズにいくよう啓蒙しています。保育室内には「保育関連記事」を掲示し、職員の意識付けを高め、子どもや制度の「取り巻く環境の変化」を理解するよう取り組んでいます。さらに、全職員で互いに研鑽を図り、専門性の向上に努め、自らの将来の姿を描くことができるよう取り組んでいかれることを期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名： けんせい保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

園で管理・利用しているマニュアル類を再度見直すことができた。また、園の良さや特色を再認識できたこと。これから取り組むべき課題を明確化できたことがとても良かったと思います。

<評価後取り組んだ事として>

1. 職員のキャリアアップを図るため、もっともっと研修機会を増やしていきたい。
2. ポストコロナ禍に向けて、地域交流の機会を増やす準備を進めた。
3. ポスト待機児童時代に向けて、ホームページの改善や、ブログの改善等、発信の仕方を工夫する努力を始めている。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり